

専業主婦が求める育児支援

畑谷 圭子 リクルートワークス研究所・客員研究員

少子化問題の要因のひとつである夫婦の出生行動に大きな影響を与える子育て支援に対して、経済的支援や仕事との両立支援はいくつかの施策が実施されている。しかし、一方で、専業主婦への子育て支援は具体的な支援策が実施に至っていない。専業主婦はどのようなことに困っていて、どのような育児支援を求めているのであろうか。子育て中（末子3歳以下）の専業主婦97人への聞き取り調査を中心に考察する。

キーワード：少子化、育児による拘束、サポート不足、理由を問わない託児

I. 研究方法

I-1. 概要

首都圏の主婦（夫がいる人）で、現在就労していない、末子年齢が3歳以下の97名に対して「専業主婦の育児支援や託児についてのアンケート」を配布し、回収時に10～15分の聞き取りインタビューを2005年10～11月に実施。うち74名は、キャリアママ（全国10万人の主婦をネットワークし、マーケティング、SOHOワーカー支援などを行う）において募集をかけ、残りの23名は、知人を通じて募集。

I-2. アンケート回答者の属性

- ・ 年齢；20代21.7%，30～34歳42.3%，35～39歳36.1%
- ・ 末子年齢；0歳27.3%，1歳35.4%，2歳15.2%
3歳が20.2%
- ・ 子供の数；1人41.2%，2人48.5%，3人10.3%，
- ・ 大卒・短大卒65.6%，専門学校卒14.1%，高卒18.2%，中卒2.0%
- ・ 年収；400万円未満17.5%，400万～600万円40.2%，600万～800万円24.7%，800万円以上13.4%
- ・ 夫婦と子のみで居住；88.7%，親と同居11.3%

I-3. 調査項目

子育てで困っていること、平日の子どもとの過ごし方や行動範囲、自分のために使えるお金、子育ての相談相手、外出時や具合が悪い時に預かってくれる相手の有無、自分や夫の親との関わり、子育てで求める支援、子どもを預けることの考え方や実態、具体的な預け先への要望、夫の家事育児への関わり方とそれに対する満足度、子育てへのストレスの有無などについて項目設定を行った。

II. 調査結果

II-1.. どのようなことに困っているのか

「自分の時間がない」69.1%、「やりたいことができない」66.0%、「具合が悪くても子どもの面倒を見なくてはならない」58.8%、「仕事をしたいができない」44.3%など、育児による拘束についての項目が上位に多く見られた。また、「自分の時間がない」「やりたいことができない」の具体的な内容は「家事をしたい」「ぼーっとしたい」「病院や美容院、買い物などに行きたい」「趣味」「子どもの入院時の付き添い」など日常的なことが多かった。「はい」と答えた人のうち、「子育てにストレスを感じている」と答えた人の割合を見てみると、「夫との関係」が78.6%と高かった。

図表1 子育てで困っていること

子育てで困っていること	はい		うち最も困っていると答えた人		うち育児ストレスあり	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
育児による拘束						
自分の時間がない	67	69.1%	22	22.7%	47	70.1%
自分のやりたいことができない	64	66.0%	10	10.3%	45	70.3%
仕事をしたいができない	43	44.3%	7	7.2%	28	65.1%
体力的にきつい(寝不足など)	42	43.3%	4	4.1%	27	64.3%
自由になるお金がない	38	39.2%	7	7.2%	28	73.7%
おしゃれなどに気を配れない	28	28.9%	0	0.0%	19	67.9%
その他						
多少具合悪くても子どもの面倒をみなくてはならない	57	58.8%	13	13.4%	36	63.2%
夫との関係(理解がない、家事・育児に関わらない、話を聞いてくれない)	14	14.4%	4	4.1%	11	78.6%
自分の気持ちがコントロールできない	25	25.8%	2	2.1%	19	76.0%
子育てが思い通りにならない	24	24.7%	0	0.0%	17	70.8%
社会から取り残されている気がする	20	20.6%	1	1.0%	13	65.0%

「子どもを預けるサービスはどんなときに利用したいか」と聞いたところ、73.2%の人が「買い物・美容院」と答え、「自分の趣味・習い事のため」56.7%、「再就職のための活動、職業訓練・スクールへ通う」54.6%と続いた。特に利用したいときでは、「自分の趣味・習い事」「別の子どもの用事」と答えた人が多かった。

図表2 どんなときに子どもを預けるサービスを利用したいか

子どもを預けるサービスをどんなときに利用したいか	はい		うち特に利用したい時	
	人数	割合	人数	割合
買い物・美容院	71	73.2%	13	13.4%
自分の趣味・習い事	55	56.7%	16	16.5%
再就職のための活動、職業訓練・スクール	53	54.6%	11	11.3%
冠婚葬祭	44	45.4%	8	8.2%
別の子どもの用事のため	33	34.0%	15	15.5%
夫婦二人で出かけたいとき	32	33.0%	4	4.1%
自分ひとりで過ごしたいとき	25	25.8%	2	2.1%

「自由になるお金がない」という人が4割いたが、1ヵ月に自分がかえるお小遣い1万円未満の人が61.9%、5000円未満も25.8%であった。

II-2. 専業主婦を支えている人々は誰か

① ママ仲間との関わり

子育てについて相談できる相手は、主に聞いてくれる人では53.6%と半数が夫であるが、自分の親16.5%、ママ仲間が13.4%であった。さらに複数回答ではママ仲間と答えた人が90.7%、続いて自分の親85.6%、夫82.5%となっている。また、

一ヶ月に自分がかえるお小遣いが1万円未満の人は6割近くもいたにもかかわらず、全体の34.0%がそのつかい道に「ママ仲間とのランチやお茶」をあげて、子どもを預けたことがあるかという問いにママ仲間と答えた人が36.1%もいた。

図表3 子どもを預けた経験

	預けたことがある	預けてもいい	合計
ママ仲間	36.1%	45.4%	81.4%
ベビーシッター	7.2%	66.0%	73.2%
保育ママ	3.1%	69.1%	72.2%
ファミリーサポート	7.2%	61.9%	69.1%
地域で子育て活動している人	1.0%	66.0%	67.0%
友人	13.4%	50.5%	63.9%
保育科の学生	0.0%	43.3%	43.3%
近所の人	10.3%	20.6%	30.9%
ボランティアの高齢者	2.1%	28.9%	30.9%

② 自分の親との関わり

「家事・育児で困ったらすぐに手伝ってくれる親戚が近くにいますか」という問いに「自分(妻)の親」と答えた人が55.7%と半数を超え、自分が寝込んだときに子どもみってくれる人として夫をあげた人が58.7%、自分の親が52.5%、夫の親が22.7%であった。親の支援が特に重要になる第2子以降出産時に、上の子の世話を誰がしていたか答えた41名のうち、自分の親が25名(里帰り、親に来てもらう、実家に子どもだけ預ける等)であった。なんらかの形で夫が関わったという人は4人のみだった。

③ 夫との関わり

夫の家事・育児の関わりに関して不満・あまり満足ではないという人が29.3%であった。夫への要望は「健康に気をつけてほしい」53.6%、「自分のことは自分でやってほしい」43.3%など、家事・育児のサポートではない内容が上位2項目であった。また、夫への要望が「家事・育児に関する話を聞いてほしい」「家事・育児にがんばる私をほげまし、ほめてほしい」という項目で「はい」と答えた人のうち、「育児ストレスあり」と答えている人の割合が高かった。

家事・育児のサポートに関する要望が上位にきていないが、フリーコメントで「平日の家事・育児はまったく期待していない」と23.7%の人が答え「家事や育児の協力以前に、自分の洋服や食べたあとに食器は自分で片付けるなど、せめて自分のことはちゃんとしてほしい」と続けた。平日の夫の帰宅時間を聞いたところ、21時以降と答えた人が58.7%を占め、その半数以上が23時以降であった。また、27.8%の人がもっと稼いでほしいと希望していた。

図表4 夫への要望

夫への要望	はい		うち最も困っている人		うち育児ストレスあり	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
家事・育児以外						
健康に気を使って	52	53.6%	12	12.4%	30	57.7%
自分のことは自分でやって	42	43.3%	14	14.4%	29	69.0%
家事・育児にがんばる私をほげまし、ほめて	33	34.0%	9	9.3%	27	81.8%
もっと稼いで	27	27.8%	6	6.2%	21	77.8%
家事・育児に関する話を聞いて	15	15.5%	5	5.2%	13	86.7%
二人で過ごす時間を増やして	10	10.3%	0	0.0%	7	70.0%
家事・育児のサポート						
休日の育児	40	41.2%	5	5.2%	27	67.5%
早く帰ってきて	38	39.2%	13	13.4%	24	63.2%
休日の家事	29	29.9%	3	3.1%	21	72.4%
家族と過ごす時間を増やして	18	18.6%	3	3.1%	11	61.1%
平日の育児	17	17.5%	0	0.0%	13	76.5%
平日の家事	14	14.4%	1	1.0%	9	64.3%

II-3. 専業主婦の平日の過ごし方

平日の昼間の子どもとの過ごし方は、「近所の公園で遊ぶ」76.3%、「知りあった子どもの友達の家

で遊ぶ」67.0%であった。「自宅以外はあまりいかない」という人が22.7%いたが、最もよくする過ごし方で「自宅以外はあまり行かない」が「近所の公園」28.9%につぐ16.5%で、うち68.2%がストレスありと答えている。「子どもを連れて気軽に遊びに行く場所」の目安は、徒歩で20分以内が74.5%で、10分以内という人も27.0%だった。

図表5 子どもとの平日の過ごし方

平日の過ごし方	はい		うち最もよくする過ごし方		うち育児ストレスあり	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自宅以外あまり行かない	22	22.7%	16	16.5%	15	68.2%
近所の公園	74	76.3%	28	28.9%	45	60.8%
児童館	45	46.4%	9	9.3%	27	60.0%
子どもの友達の家	65	67.0%	12	12.4%	38	58.5%
自分の友達の家	26	26.8%	3	3.1%	15	57.7%
保育園の解放日	14	14.4%	2	2.1%	4	28.6%
電車に乗って施設へ	26	26.8%	1	1.0%	16	61.5%
自分や夫の実家	34	35.1%	3	3.1%	13	38.2%
自分の兄弟姉妹の家	11	11.3%	1	1.0%	7	63.6%
その他	27	27.8%	4	4.1%	19	70.4%

II-4. 専業主婦が求める支援

子育てで欲しい支援は「理由を問わない安価な託児」71.1%「子どもがいても参加できる託児付きのイベント」66.0%と、上位2項目が託児に関する要望であった。以下、「ベビーカーなどでも使いやすい施設（駅や商業施設）」53.6%、「就職支援」38.1%、「安価なベビーシッター」23.7%など、育児サポートに関する項目が上位を占めた。

図表6 子育てで欲しい支援

子育てで欲しい支援	はい		うち最も欲しい支援		うち育児ストレスあり	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
理由を問わない安価な託児	69	71.1%	29	29.9%	46	66.7%
子どもがいても参加できるイベント(託児付)	64	66.0%	13	13.4%	39	60.9%
ベビーカーなどでも使いやすい施設	52	53.6%	6	6.2%	32	61.5%
子どもを遊ばせる機会や場	45	46.4%	10	10.3%	30	66.7%
就職支援	37	38.1%	6	6.2%	24	64.9%
安価なベビーシッター	23	23.7%	7	7.2%	14	60.9%
子育て情報	18	18.6%	1	1.0%	13	72.2%
安全対策	16	16.5%	2	2.1%	8	50.0%
夫の会社の育児休暇	15	15.5%	12	12.4%	11	73.3%
育児の不安相談	13	13.4%	2	2.1%	10	76.9%
安価な家事支援	12	12.4%	1	1.0%	6	50.0%
子育ての学びの場	9	9.3%	0	0.0%	6	66.7%

II-5. 託児に関する要望

子育てでほしい支援として託児を求める人が多く、「仕事をしているかどうかにかかわらず子どもを預けるサービスがあった利用したいか」という問いにも94.8%の人が預けたいと答えた。ただし67.0%の人が「条件があれば預けたい」と答えている。託児に関する具体的な要望を聞いた。

① 場所

預け方についての要望は90.7%の人が公立の保育園のような保育施設がよいと答え、地域センターや公民館のような場所という人が77.3%であった。また、「近所の個人の家に分の子どもだけを預ける」は36.1%（預けられる子どもが分の子どもだけでなく複数であれば51.5%）であった。「家に来てもらう」は33.0%と低く、家で預けるのが嫌な理由は「自分が家にいないときに他人に家にいてほしくない」「家が散らかっているのを見られたくない」「信頼できない」などであった。また、他人の家に預けることは「虐待などのニュースを見て不安」「個人同士はトラブルが心配」「気を遣う」などの声が聞かれた。広い公共の場所で、預かる人も、預ける方も複数という方法が望ましい。

図表7 希望する子どもの預け先

保育園などの保育施設	90.7%
地域センターや公民館	77.3%
近所の個人の家（子どもは複数）	51.5%
近所の個人の家（分の子どもだけ）	36.1%
家に来てもらう	33.0%

② 預ける相手

子どもを預けた経験を聞くと（図表3）、ママ仲間が高かった。「預けてもいいか」という問いには、ベビーシッター会社の人や保育ママ・ファミリーサポートといった、子育ての実績のある人が高く支持されている。また、預ける相手に必要と答え

た人が多かったものは、「子どもに対する姿勢や熱意」「人柄」「病気やけがの知識や対応」、「子どもの心理についての知識」などで、逆に一定の年齢や保育士の資格を求める声は少なかった。最も必要なものの上位項目も、「子どもに対する姿勢や熱意」「人柄」などであった。

図表8 子どもを預ける相手に必要なもの

	とても必要	最も必要
子どもに対する姿勢や熱意	75.3%	30.9%
人柄	73.2%	16.5%
病気やけがの知識や対応	62.9%	12.4%
子どもの心理の知識	54.6%	4.1%
子どもと接した豊かな経験	48.5%	15.5%
子どもを預かった実績や評判	29.9%	5.2%
子どものからだや発達についての知識	27.8%	-
分の子どもを育てた経験	17.5%	1.0%
栄養や食事についての知識や実践	17.5%	-
保育士の資格	8.2%	-
ある程度の年齢	2.1%	-

II-6. 今後の就労希望

フリーコメントで、出産前の就業状況や今後の就労についての考え方を聞いたところ、約半数の48.4%の人が、妊娠前はフルタイム（非正規含む）で働いていたが妊娠・出産を機に辞めていた。なかには自分の意志で就労を継続しなかった人もいたが、「つわりがひどくて」「残業がきつい」「妊婦が働くような環境ではなかった」など、子育てに専念したいと望んで会社を辞めたというより、辞めざるをえなかったため、結果として専業主婦になった人も多かった。また、46.4%の人がすぐにも働きたいと答え、働き方に対する希望は、フルタイムを希望する人（10.3%）、「在宅・内職・自営」を希望する人（9.3%）、「週に3日か4日、10時から15時まで」といった曜日も時間も短縮した条件を求める人（26.8%）の3つのタイプに分かれた。

一方で、「いつかは働きたい」と答えた人が22.7%、働くつもりはないと答えた人も30.9%いた。